

<研究成果の紹介>

畦畔から侵入する水田雑草「アシカキ」の抑草方法

農業研究所 伊賀農業研究室

1. 成果の内容

畦畔から水田内に侵入する匍匐性のイネ科多年生雑草には「キシウスズメノヒエ」「サヤヌカグサ」「アシカキ」等11種が確認されています。侵入茎の伸長が早く、水田内に入ると節から根を下ろして活着するため除草に労力がかかることから、農家には「ヨバイズル」などと呼ばれ嫌われている雑草です。これらの中で「キシウスズメノヒエ」は、シハロホップチル剤（商品名：クリンチャー）で防除ができますが、「アシカキ」「サヤヌカグサ」には除草効果が無いため、効率的な防除方法が求められていました。

今回、「アシカキ」に効く除草剤を検索した結果、ベンゾピシクロンとピラクロニルが有望であることが判明しました。さらにこの2成分を含有する除草剤（商品名：ピラクロエース・フロアブル、イネキング1キロ等）を通常の水稲用除草剤として使用すると、畦畔からの「ア

シカキ」の侵入茎に抑草作用を示し発生量を軽減できることがわかりました（図1、図2）。

2. 技術の適用効果と適用範囲

除草効果は完全ではありませんので「アシカキ」対策剤としてではなく水稲用除草剤の補完的な作用として効果が期待されます。ピラクロニルは平成20年度から市販される新規除草剤ですが、ベンゾピシクロンは既に広く利用されています。若干効果が劣るものの、ベンゾピシクロンのみでも抑草効果があります。また、「アシカキ」だけでなく「サヤヌカグサ」にもこれらと同様の効果が期待できます。

3. 普及・利用上の問題点

「アシカキ」の本田侵入時期は5月中旬頃ですが、除草剤処理時期が早い場合などでは効果が劣る場合があります。

（神田 幸英）



図1 畦畔から侵入するアシカキ茎



図2 ベンゾピシクロン、ピラクロニル含有除草剤によるアシカキ茎の抑草効果